

## 術者徒手による下顎頭変位の再現性について

### —術者の違いによる検討—

○中村健太郎, 林徳俊, 山本司将, 近藤康史, 小島栄治\*, 倉田豊\*\*, 富澤倫\*\*\*,  
岡本直樹\*\*\*\*, 高梨和弘\*\*\*\*, 細川稔晃\*\*\*\*, H. W. Lang\*\*\*\*\*

東海支部, \*西関東支部, \*\*東関東支部, \*\*\*東京支部, \*\*\*\*九州支部,  
\*\*\*\*\*カボデンタルシステムズジャパン

Reproducibility of Guided Mandibular Condyle by Practitioner Manipulation  
- Investigation of Practitioner Difference-

Nakamura K, Hayashi T, Yamamoto M, Kondo Y, Kojima\* E, Kurata Y\*\*, Tomizawa H\*\*\*,  
Okamoto N\*\*\*\*, Takanashi T\*\*\*\*, Hosokawa T\*\*\*\*, Lang H.W. \*\*\*\*\*  
Tokai Branch, \*Nishi-Kanto Branch, \*\*Higashi-Kanto Branch, \*\*\*Tokyo Branch, \*\*\*\*Kyusyu Branch,  
\*\*\*\*\*KaVo Dental Systems Japan Co., Ltd.

### I. 目的

米国歯科補綴学用語集では、中心位を左右の顎頭がそれぞれの関節窩内で関節円板の薄い凹部に密着して介在し、前上方にして関節結節の斜面部と対向している上下顎の位置関係で、開閉運動の円弧状にあり、この位置は歯の接触に依存しないと定義している<sup>1)</sup>。

日本補綴歯科学会では、中心位を専門用語とするには不適當ではないかとの意見があるものの、すべての顎位の原点として極めて重要な用語であり、現時点において適当な代替用語が未確定であることから同様な定義が掲げられている<sup>2)</sup>。

それ故に、近年の補綴治療では、顎機能障害などにより現状の咬頭嵌合位を基準とすることができない場合、中心位を咬合再構成の基準とし、中心位へ誘導することが推奨されている。

われわれは、顎機能障害者では中心位の定義する形態に基づいた関節円板の形態、位置および下顎頭の形態が全く認められず、中心位への誘導が不可能であることを明らかにした<sup>3)</sup>。

今回は、中心位の正当性について検討することを目的に、術者別の術者徒手による健常有歯顎者の下顎頭の変位における再現性について中心位の観点から検討したので報告する。

### II. 方法

被験者は、次の条件を満たし、実験に同意が得られた男性1名（35歳）である。

- ・欠損や著しい歯列不正が認められない。
- ・顎機能障害を有さない。
- ・歯周疾患に罹患していない。
- ・MR撮像により、関節円板の形態および位置異常、下顎頭の変形が認められない。

実験者は、次の条件を満たし、実験に同意が得られた歯科医師男性12名（33～50歳：平均40.3歳）である。

- ・歯科医師年数が8年以上である。
- ・補綴臨床経験年数が8年以上である。
- ・Bilateral Manipulationを理解している。

実験装置は、デジタル式顎運動計測装置ARCUS digma II（KaVo社製）である。

実験方法は、各実験者が被験者でBilateral Manipulationによる中心位誘導を十分に練習し、確認した後、計測モジュールGuided Centricにて各実験者の中心位誘導による左右側下顎頭の変位を1回記録した。

分析は、CRT上にて矢状面観における前上方位を前方45±5°方向と設定し、各実験者別、各関節別に変位方向を観察した。

### III. 結果と考察

計測モジュールGuided Centricにて下顎頭の変位方向を観察した結果、

1. 前方45±5°方向に変位が認められた下顎頭は、24関節中1関節4.2%であった。
2. 前上方方向に変位が認められた下顎頭は、9関節37.5%であった。
3. 左右側とも前上方方向に変位が観察できた実験者は12名中1名であった。

以上のことから、正常な顎関節部であっても、中心位の定義をみだす変位はほとんど認められなかった。

よって、徒手による中心位への誘導は難事であることが明らかとなった。

### IV. 文献

- 1) GPT-5: Glossary of Prosthodontic Terms, 5th edition. The Academy of Prosthodontics. J Prosthet Dent 1987; 58: 717-762.
- 2) 日本補綴歯科学会（編）. 歯科補綴学専門用語集 第3版. 東京: 医歯薬出版; 2009, 64-65.
- 3) 中村健太郎, 林徳俊, 近藤康史, 小島栄治, 倉田豊, 浅井英匡ほか. MR撮像による顎機能障害者の関節円板と下顎頭について—中心位における検討—. 日補綴会誌 2010; 2・119回特別号: 101.